

1年を24と72の季節に分けてそれぞれに美しい名前が付けられていますが、6/11～6/15は七十二候で「腐草為螢（くされたるくさほたるとなる）」と呼ばれています。ホタルは腐った草が生まれ変わったものという意味だそうです。



図書ボランティアさん作成の図書室前の廊下掲示も、いつの間にかホタルに変わっていました。ホタルの飛び交う季節ですね。

6月7日（水）～9日（金）には、室場小学校の児童が平原ゲンジボタルの里でホタルガイドをする**ホタル祭り**が開催されました。天候の悪い日もありましたが、千人を超える人が集まった日もあったと聞きました。

ホタルが飛び交う里が近くにあるというのは、なんと素敵なことでしょう。

こうしたお祭りができるのは、平原地区が立地に恵まれており、川がきれいだから、ホタルがたくさん育っている、という単純な理由ではなく、ホタルがいつまでも見られるようにと、この場所の保存に尽力する熱い人々がいるからです。特に中心となってみえるのは**平原ゲンジボタルの里保存会**の方々です。

そして、室場小学校ホタルクラブとともに、本校にも**東部ホタル保存部**という特色ある部活動があり、餌となるカワニナの研究として飼育をしたり、ホタルの幼虫を育てたりして、学習と保存活動に取り組んでいます。

活動を行う中で、原因不明なまま死んでしまう幼虫に悩んだり、産卵箱のふたがずれて脱走騒ぎが起きたり、水質や水温の管理に気を配ったり、と悪戦苦闘する姿があります。

美しい東部地区の環境を守る活動をする人々はほかにもたくさんみえます。たとえば「ふれあいの道」の環境整備を中心にボランティア活動をされている**「三和の美しい環境を育む会」**の方々などです。三和小学校の児童も協力をし、環境学習の一環として取り組んでいます。

地域と連携した取り組みはどの小学校もしっかりと行われており、その系統性を踏まえて、地域学習やSDGsに目を向けた学習を、今、東部中の総合的な学習でも展開しようと進めています。

3年生の中には「豪雨（6月2日）で大変な状況の場所が西尾市にあるそうですよ。なにか私たちにできないかな」と話題にする子がいたそうです。教育活動としては慎重さを要するときもあり、すぐに行動とはいきませんが、そういう心根が生徒の間に確実に育っていることをうれしく思います。